

はじめに

「学校図書館支援事業」で、学校を訪問したときに、図書館担当の方から一番よく質問されるのは「どんなことだと思われませんか？」
それは、「古くなった大量の図書や、どう扱ったらよいか。」という事です。
内容がすでに古くなった図書や状態が悪い図書は、一旦書庫に保管するか、除籍することを勧められています。
図書を大事に取っておこうとする学校は多くあります。資料の保存は、県立図書館や国立国会図書館等においては、その大きな役割の一つですが、学校図書館においては、必ずしも資料の「保存」が主目的ではなく、児童生徒や教職員に「利用」されることで、その設置目的にかなうのではないのでしょうか。
利用の見込みのない古い図書を天井近くまで配架しているようでは、新しい本も埋もれてしま目立ちません。
まずは、公益財団法人学校図書協会の「学校図書館図書廃棄規程」等を参考に、学校に合った除籍のための基準を作成し、定期的に除籍を行うことが、「役に立つ」図書館への第一歩となります。
広島県立図書館長



生徒と本を結ぶ方法を御紹介します。

授業、行事、校務分掌等と連携した資料展示

- 「教科書に出てきた作品・作家特集」
- 「国際交流を行っている国について」
- テーマ「さよなら、ストレス」
保健室と連携して、心や体・人間関係等の悩みに関する本を紹介する等

<上下高等学校作成 展示用本型模型>

B1サイズのパネルに、あらすじ、登場人物、おすすめポイント等を紹介しています



生徒の関心を生かした

お勧め本の紹介

- 写真による先生のお薦め本
- 有名人のお薦め本（芸能人等の愛読書）
※ 雑誌『ダ・ヴィンチ』等に掲載
- 図書委員やヘビーユーザーによるセレクト展示
- 本の帯、お薦め本の「ポップ」コンクール等

<〇〇先生イチオン本>



ちがみに！

「今週返却された本」のコーナーを設けたり、図書館以外の教室・廊下等への図書の展示も効果的です。
あまり本を読まない生徒も関心を示すはずです。

<「読書ボード」：読書会の感想>



本を読んだ楽しさを共有する行事

- ビブリオバトル
 - 1 参加者が、おもしろいと思った本を持って集まる。
 - 2 順番に、1人5分間で本を紹介する。
 - 3 それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
 - 4 「どの本が一番読みたくなったか」を投票し、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。
- 読書会
その場で短い本を読んで、「読書会シート」に感想を書き込み、お互いの意見を発表する。読書会の感想を書いて「読書ボード」に貼る。
- 読書座談会、スピーチ等
数人の先生による実演等

自分では手に取らない本も、意外とおもしろそう！

先生は、どんな本を読んでいるの？

～お知らせ～

「ビブリオバトル」を行います。

<広島県立図書館「図書部！！」in 庄原>

日時：平成26年12月7日（日）午後1時～午後3時

場所：庄原市田園文化センター

申込：広島県立図書館又は庄原市立図書館

<http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/hp/menu000002400/hpg000002321.htm>

編集後記

今年度、上半期の訪問校で、図書館担当の方から「以前は、「図書だより」を配布したら、生徒がたくさん図書館に来たが、最近あまり反応がない。」と言われました。
生徒の変化もあるかもしれませんが、「図書だより」自体の在り方を見直すよい機会かもしれません。
生徒の関心が高いテーマを特集したり、「誰が」薦める本かを強調したり、イチオシの本を特に詳しく掲載したりと、均一化された内容ではなくインパクトのある紙面づくりを試してみたいかがでしょう。また、『新潮文庫の100冊2014』のように、その本のもっとも印象的な一行を抜き出してページ数を記載するやり方も、生徒の興味を惹くのではないのでしょうか。（事業課）